

3. 燃料供給不能

船舶インシデント

燃料タンク等にたまった水が燃料に混入し、船外機が停止

本船（総トン数5トン未満）は、船長が1人で乗り組み、帰航のため船外機を始動したが、クラッチを入れると船外機が停止する状態となった後、絡索や風浪による打ち込みから自力航行が不能となり、海上保安庁に救助を要請した。

本インシデント後の点検で、燃料タンク、燃料ホース及び気化器に水がたまっていることが判明しました。

船長は、出港前の点検で燃料タンクの水抜きを行っていませんでした。

船舶インシデント

燃料供給系統に空気が混入し、燃料が供給されずに主機が停止

本船（総トン数5トン未満）は、船長が1人で乗り組み、船外機をアイドリング状態として漂泊中、船外機が停止して始動できなくなり、海上保安庁に救助を要請した。

本インシデント後の点検で、燃料タンクと船外機とを接続するゴムホース内の空気を除去するためのプライマリポンプに亀裂が生じ、空気が混入して船外機に燃料が連続して供給されない状態であることが分かりました。

本船のプライマリポンプは、約15年間使用されていました。

再発防止に向けて

- 燃料タンクに水が混入したり、燃料供給系統に空気が混入したりすると、主機（船外機）が運転できなくなる可能性があります。
- 発航前には、燃料供給系統の点検を行い、必要があれば水抜き、エア抜き及びフィルターの掃除を行いましょう。
- 定期的に点検を行い、劣化している燃料フィルターやゴム製品は交換しましよう。



プライマリポンプ

発航前に点検！



燃料フィルター